生野鉱山町は市川沿いにおよそ7キロメートルに及んでいる。かつては，鉄道が鉱山から川沿いに町まで通っていたが，今日では昔の線路の一部しか残っていない。あるものは今でも姫宮橋に見ることができ，その橋からは川を見渡せ，町の素晴らしい景観を眺めることができる。生野の頂上には昔の精錬工場が建っていて，それは1874年に建てられ，今も活発に錫の精錬を行っている。町の中心は口銀谷として知られているが，多くのさまざまな時代からの屋敷や建物が集まっている。あるものは江戸時代(1603–1867)にまでさかのぼる。その一つで｢井筒屋｣として知られているものは吉川家の屋敷で，吉川家は江戸時代に生野鉱山の指揮を執っていた。屋敷は1999年に寄付され，町の歴史からの興味深い人工遺物を展示している。志村喬博物館には三菱鉱業会社により，従業員のために建てられた家々が展示されている。これらの家々は明治(1868-1912)，大正(1913-1926)，昭和(1926-1989)期に及ぶもので，さらにそれらの時代の家具や家電製品も展示されている。